

浅田妙浄先生 法話

くどくどんご 功德の尊厳

おかげさまでありがたうございます。

本日は、皆様に功德についてお話しますように。

世界的大不況の中、毎日のように社会混迷のニュースが流れており、本当に心を痛めております。「この苦渋の時、何をすれば幸せになれるのか。」と思われるでしょうが、私は、「ご利益信心ではなく、慈悲の心で功德をなすこと」とお教えしております。というのも功德をなすことによって、大人の方からお子さんまで、誰もが運が開けて幸せになれるからです。

そもそも功德とは何でしょうかと。恐らく初めて聞くという方もいらっしゃるでしょう。しかし功德については、多くの方がご存知だと思います。「一般に善いことや、または尊いことを「善行(ぜんぎょう)」と言いますが、徳とは、善行によって得られるものと言われております。私は徳と功德とを使い分けており、「善行を通して徳を積み重ねていくこと」を、功德と呼んでおります。さらに徳分という言葉があります。これは、「自分の内にある徳」のことです。言い換えれば徳分とは、自分が持っている「全ての徳」のことなのです。

宗教の世界では、お堂や塔を建てたり、仏像を造ったりすることや、写経や読経などが善行です。こう聞くと、難しい特別なことをしなければ功德をなすことはできないと思われるでしょう。しかし、誰もが日常生活の中での善行を通して功德をなすことができると、私は思っております。ではまず、「ご自分の内にある徳」、「すなわち徳分の本質からお話しますように。

人は生まれながらにして徳分を持っております。それはご先祖様やご両親から引き継いだものであり、ご自分の徳分は、やがてご子孫に受け継がれます。引き継がれた徳分の大きさは、人によって異なりますが、実は徳分の大きさが、その人の運の良し悪しに大きく関わってきます。例えば、飛行機事故や交通事故といった大惨事 のときに九死に一生を得た方や、何をやってもうまくいく方を見かけます。その一方で不慮の事故に突然遭遇する方もおられます。こうした人生の明暗には、ご自身の徳分が大きく影響するのです。

徳分は金銭と違い、他人に盗られることはありません。しかし「自分は強運の持ち主だ」と、ごんごん徳分を使っていくとごんごんではないでしょうか。金銭と同様、貯蓄しなければやがては底をついてしまい、結果として人生を大きく変えてしまうことになりかねません。だからこそご自分の幸せのために、善行をなし、しっかりと徳分を大きくしていくことが大切なのです。同時にそれは大きな徳分を未来へと引き渡すことにもなるのです。徳分というバトンをどっぴやっぴご子孫に渡せるかは、あなたが徳分をどう考えるかが鍵となります。では、徳分を大きくするためには、徳をどっぴやっ



太魂教会 主管 浅田妙浄

昭和十六年、大阪に生まれる。小学校五年のときから、厳しい修業の道に入り、若くして滝行、護摩行、山行等を修め、師匠からも一目置かれるほどの「修行者」となる。二十歳過ぎに、主神「秋津天御親太御魂大神」の天啓を受け不思議な神力を授かり、以来太魂教会を興し、多くの人々を幸福へと導く。その功績著しく修業をした本山「妙見宗本滝寺」より、平成四年僧正の僧階を与えられる。

て積みばいいのでしょうか。つまり普段の生活の中でできる功德の方です。

幼い子供に「えらいね。よくがんばったね。」と褒めてあげたり、ひどく悩んでいる人に優しく接して励ましてあげたりしたことがおありでしょうか。たとえどんな一言であってもあなたの慈悲の心から出た言葉には魂が宿っており、「言霊(ことだま)」となって相手に人生を開く機会を与えることがあります。その時、相手にごく自然と湧く喜びや、あなたへの感謝の気持ち が徳となつてあなたに還ります。

相手はこの世の方だけとは限りません。あなたが生まれてきたのはご両親のお陰ですが、お父さんにはご先祖様あつてのことです。生をつけたことにご両親同様、ご先祖様にも感謝しながらご供養をして喜んで頂くことも、あなたにとって徳を積むこととなります。最後に私の体験をもとに功德がどれほど尊いものか、お話ししますように。

ある日、主人の運転する自家用車に乗っていたところ、路線バスに追突してしまいました。私たちの自家用車のフロント部は大破し、車両は動かなくなっていました。幸いバスは厚鉄板のバンパーによって軽い損傷ですみました。一つ間違えば大怪我をしていた私たちでしたが、不思議なことに追突した瞬間、私はふわっと抱きかかえられたような感じがしたのです。私は怪我ひとつなく、もしかするとバスの乗員乗客の方々をも巻き込む人身事故になっていたかもしれないのが、物損事故で済んだのです。

私は人様がお幸せになれるように少しでもお役に立つべくお導きさせていただいたり、ご先祖様に成仏して頂けるようにご供養を積み重ねてきたりしたことによって功德をなしてきました。つまりお助けしたご本人と周囲の方々や霊の計り知れない喜びが徳となつてわが身に還り、徳分に加わつていったのです。そしてその徳分によって一人も死傷者が出なかつたのです。

このように、私たちは現生の人や霊の喜びを願った善行によって功德をなせば、徳分を大きくすることが可能です。確かに徳分によって「宿命」である元から定められている巡り合わせを変えることはできません。しかし人生の出来事として捉えられる「運命」を変えることはできます。ご利益信心ではなく、慈悲の心をお持ちになつていれば、誰もが善行を行つて人を救つことができ、やがてそれがご自身の幸せをも生むことになるのです。

皆様が平穏な毎日をお過ごしになる中で功德をなし、更なるお幸せな人生を歩まれますように。

おかげさまでありがたうございます。